

編集後記

★★全国 100 歳以上高齢者 10 万人超 兵庫県は 4,436 人 明石市 177 人と公表 平均寿命よりも 健康寿命の延伸の方が重要

厚労省は 100 歳以上の高齢者が 107,677 人（男性は 13,379 人、女性は 94,298 人で、約 87.6%が女性）を公表。前年より 7,914 人増え、過去最多を更新。統計を取り始めた 1963 年には僅か 153 人、70 年には 310 人。81 年に 1,000 人突破、98 年に 1 万人超、2011 年に 5 万人超で毎年増加中。

兵庫県は 100 歳以上が 4,436 人（男 790 人・女 3,646 人）で過去最多を更新。総人口 540 万人で 65 歳以上が約 3 割（1,635,229 人）と高齢化率が進んでいる。処で明石市は 177 人（男 20 人・女 157 人）を公表。

平均寿命（25 年度 男性 81.35 歳・女性 87.33 歳）よりも、健康寿命（22 年度 男性 72.57 歳・女性 75.45 歳）の延伸の方が重要である。

★★日常生活困難時 家族を頼りにする日本人 長寿社会では 近隣友人・知人・ご近所さんの繋がり大切

2026 年版「高齢社会白書」によると、日常生活で困った時に「友人」や「近所の人」を頼れる日本の高齢者は、アメリカ・ドイツ・スウェーデンに比べて最少が判明。「別居の家族・親族」を頼るとした人は日本で 62.1% 家族を頼りにする傾向が強い一方で、友人や近所の人とのつながりは弱く、日本人の高齢者は地域の中で孤立しやすい現状が浮き彫りになった。

近所の人とのつながりは、日常生活だけでなく、災害が起きた時にも大きな力になります。地震や台風、大雨などの災害時には、家族が直ぐに駆けつけられるとは限りません。そんな時、身近にいて互いの安否を確認し、助け合えるのは「ご近所さん」です。長寿社会を迎えた今、健康や経済面だけでなく、「困ったときに誰かを頼れる」という人とのつながりも大切な社会基盤です。

普段から挨拶を交わし、顔の見える関係を築いておくことが、いざというときの支えにもなります。高齢者が一人で悩みを抱え込まず、地域の中で気軽に人とのつながり、支え合える環境づくりが、これから重要となります。

★★人手不足に悩む介護業界 介護ロボットによる業務の軽減 職員の負担減少 利用者向き合う時間を増やす目的利用

中国で「人間と機械の共生」をテーマにロボット運動会開催。ロボット同士の競争でなく、人手不足に悩む介護現場で、ロボットが人間をどう支えられるかを考えることが重要と思われる。介護には、移乗・見守り・記録など機械が得意な仕事がある一方、声かけや不安を察すること、看取りなど、人間にしかできない仕事もあります。また、認知症の方の暴力や拒否など、ロボットでは対応が難しい場面もあり、だからこそ 目指すべきは「人間をロボットに置き換える」ではなく、「ロボットによって人間の介護分野の業務を軽減させる」ことです。

そのための AI・ロボット活用こそ、「人間と機械の共生」にふさわしいのではないかと。世の中のめまぐるしい俊敏な変化、人生の先輩としてのリスペクト&権利意識も芽ばえてきており、介護を取り巻く環境も次々と変化しています。新しい課題や技術に対応していく中で、時代の流れについていくことの大変さを実感します。

植木より 先にわが身に 水をやる

酷暑から 酷雨の変わる 八九月

リョキョウ「買ったシューズ」は まだおニュー

回り道 そんな余裕は もうおまへん

令和 8 年 白 露

（文責 MMY）